

特別企画

名古屋大学大学院教授の天野浩氏がノーベル物理学賞を受賞した。県内出身者として初めての快挙に静岡県は県民栄誉賞を贈呈することに決定。今年1月に県庁で贈呈式が行われた。



県庁で行われた県民栄誉賞の贈呈式で、記念撮影に応じる天野氏と川勝平太静岡県知事。



川勝知事から県民栄誉賞を贈呈される天野氏。これまで3人のアスリートが受賞しているが、学術系の受賞は今回が初めて。



「地元の人に祝ってもらえるのは、かけがえのない喜びです」と挨拶する天野浩氏。

ノーベル賞を受賞した天野浩氏に県民栄誉賞

静岡県に新たな光を灯す
県民栄誉賞は、これまでにバルセロナ五輪平泳ぎ金メダリストの岩崎恭子氏(平成4年)、アテネ五輪体操男子団体総合金メダリストの水鳥寿思氏(同16年)、パラリンピック水泳4大会連続メダリストの河合純一氏(同16年)に贈られ、今回の天野氏で4人目となる。ともに県民に明るい希望と活力を与えての受賞だが、研究・学術部門では初めて。ものづくり県・静岡に新たな光を灯す結果となった。川勝知事は贈呈式の中で「この地が世のため人のためになるものづくりや、ものづくりの技術を踏まえた学問が生まれる土地であることを天野先生が実証してくださいました。この先生の学風をしっかりと継承し、静岡の大地に根付かせていきたい」と語り、天野氏への敬意を示した。

や暮らしに与えた影響は計り知れない。県民栄誉賞贈呈式後の記者会見で天野氏は「浜松はものづくりが当たり前とされる土地柄。私も小さな頃から「大人になったらものづくりで世の中の役に立ちたい」という考えを地域の中で刷り込まれて来たように思う。今後はLEDの普及はもちろん、今行っている研究を産業の種とし、新たな産業を静岡県で育てることで地元に戻返しができればと考えている」と挨拶した。

快挙の背景にはものづくりの精神
スウェーデン王立科学アカデミーが2014年のノーベル物理学賞に、赤崎勇・名城大学教授、天野浩・名古屋大学教授、中村修二・米カリフォルニア大学サンタバーバラ校教授の3氏を選考したというニュースは、日本中を祝賀ムード一色に染め上げた。3氏はともに青色発光ダイオード(LED)を開発した研究者。中でも浜松市出身の天野浩氏の受賞は、県民にとっても大きな励みとなる出来事となった。
ものづくりのまち・浜松で育った天野氏は、県立浜松西高校を卒業後、名古屋大学から同大学院へ進学。赤崎勇教授(当時)のもとで研究を続け、20世紀中には不可能と言われた青色LEDの開発に世界で初めて成功した。LEDは青色の開発で光の三原色がそろい、フルカラー化が実現。長寿命で消費電力の少ない白色LED照明の実現など、世界中の産業



発光ダイオード(LED)

電圧を加えることで発光する半導体素子。消費電力が低く、長寿命で、しかも小型であるため、あらゆる電子機器に利用されている。LEDの照明器具は省エネの代名詞的存在。社会のあらゆるシーンで急速にLED化が進んでいる。

contents

- 01 [特別企画] 静岡県民栄誉賞 天野 浩氏
- 03 [知事対談] 「ふじのくに」から発信するふるさとの森づくり 宮脇 昭氏 対談
- 07 [ふじのくにの地域外交] 韓国編
- 09 [次代を拓く] 協同組合HAMING
- 10 [花の都しずおか] マーガレット 【静岡の食】 遠州地鶏一黒しゃも
- 11 [県政特集] 防災・減災対策の推進と地域活性化 -「内陸のフロンティア」を拓く取組-
- 13 [アルカディア探訪] 石部地区(賀茂郡松崎町)
- 14 [旬のひと] 女子相撲選手 野崎舞夏星さん

◎表紙の写真

大淵公園(富士市)から見る世界遺産「富士山」



安全・安心で魅力あふれる地域づくりを目指す「内陸のフロンティア」を拓く取組。富士山の麓、新東名新富士IC周辺ではモデル地区のひとつとして物流拠点創出事業が進んでいる。その地区からほど近い大淵公園は桜の名所でもある。世界遺産「富士山」には桜がよく似合う。